

道路事業 事後評価

一般国道13号 しんじょうきた 新庄北道路

平成28年 3月2日
国土交通省 東北地方整備局

1. 事業の目的と概要 (1)

事業完了後5年経過

○事業目的

- ・東北内陸部の産業、経済、文化の広域的な交流・連携の促進
- ・三次救急医療施設へのアクセス向上
- ・交通混雑の緩和・交通事故の減少

○計画概要

起終点 : 自) 山形県新庄市松本
 至) 山形県新庄市十日町

延長 : 4.7 km

幅員 : 12.0 m

道路規格 : 第1種2級

設計速度 : 100 km/h

都市計画決定 : 平成11年度

事業化 : 平成12年度

用地着手 : 平成15年度

工事着手 : 平成17年度

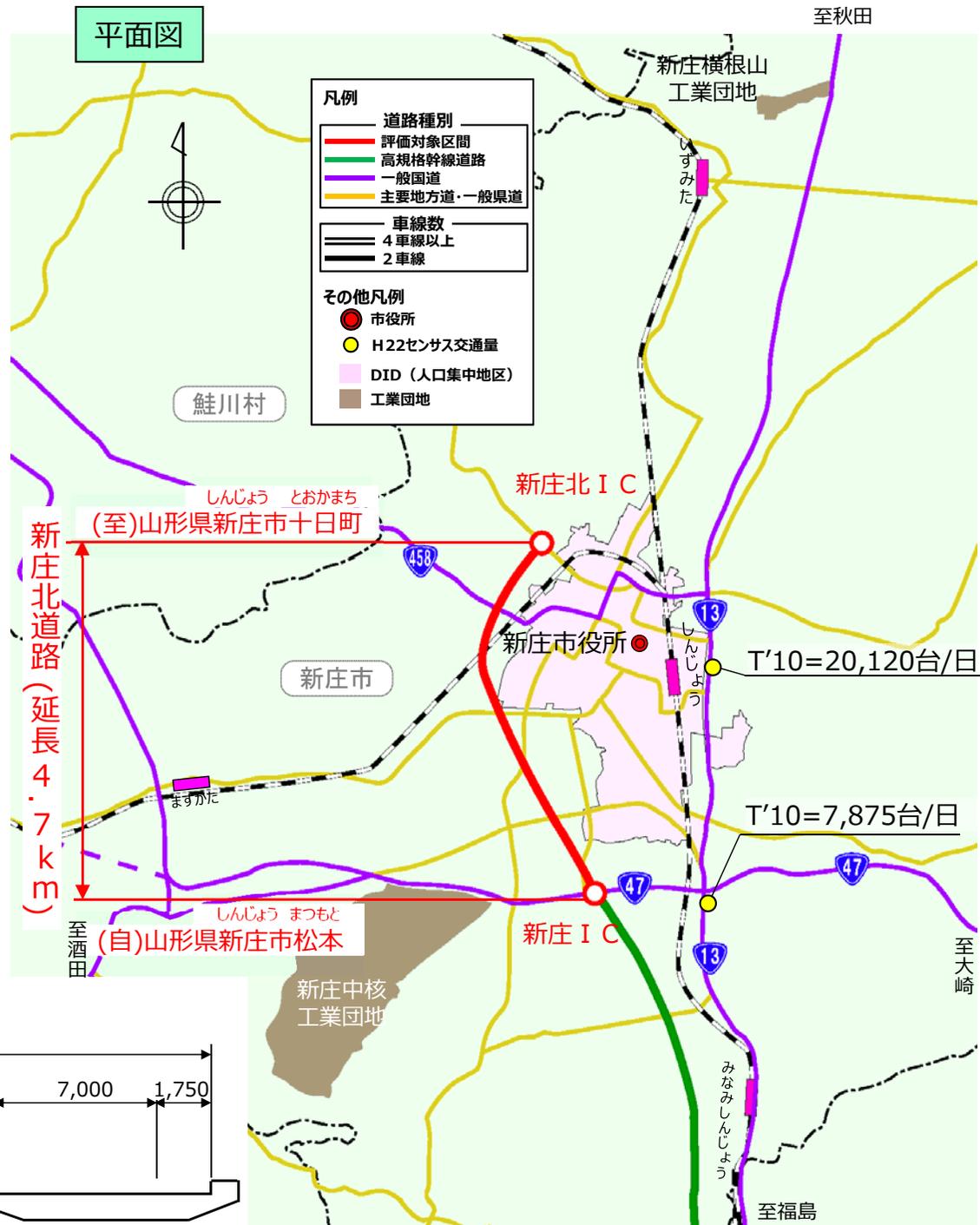
全線開通年度 : 平成22年度 (H23.3)

位置図



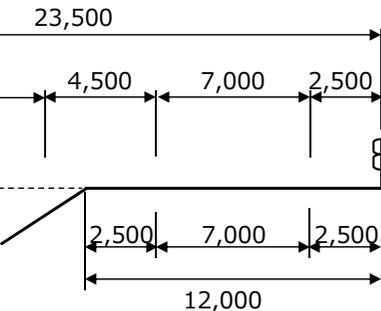
一般国道13号
新庄北道路

平面図

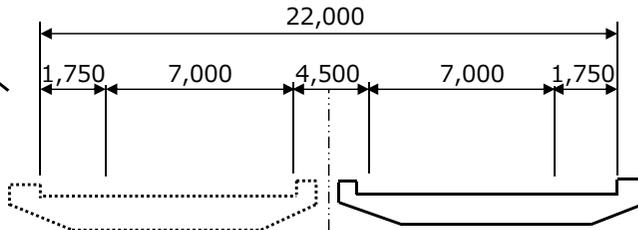


標準横断図

【一般部】



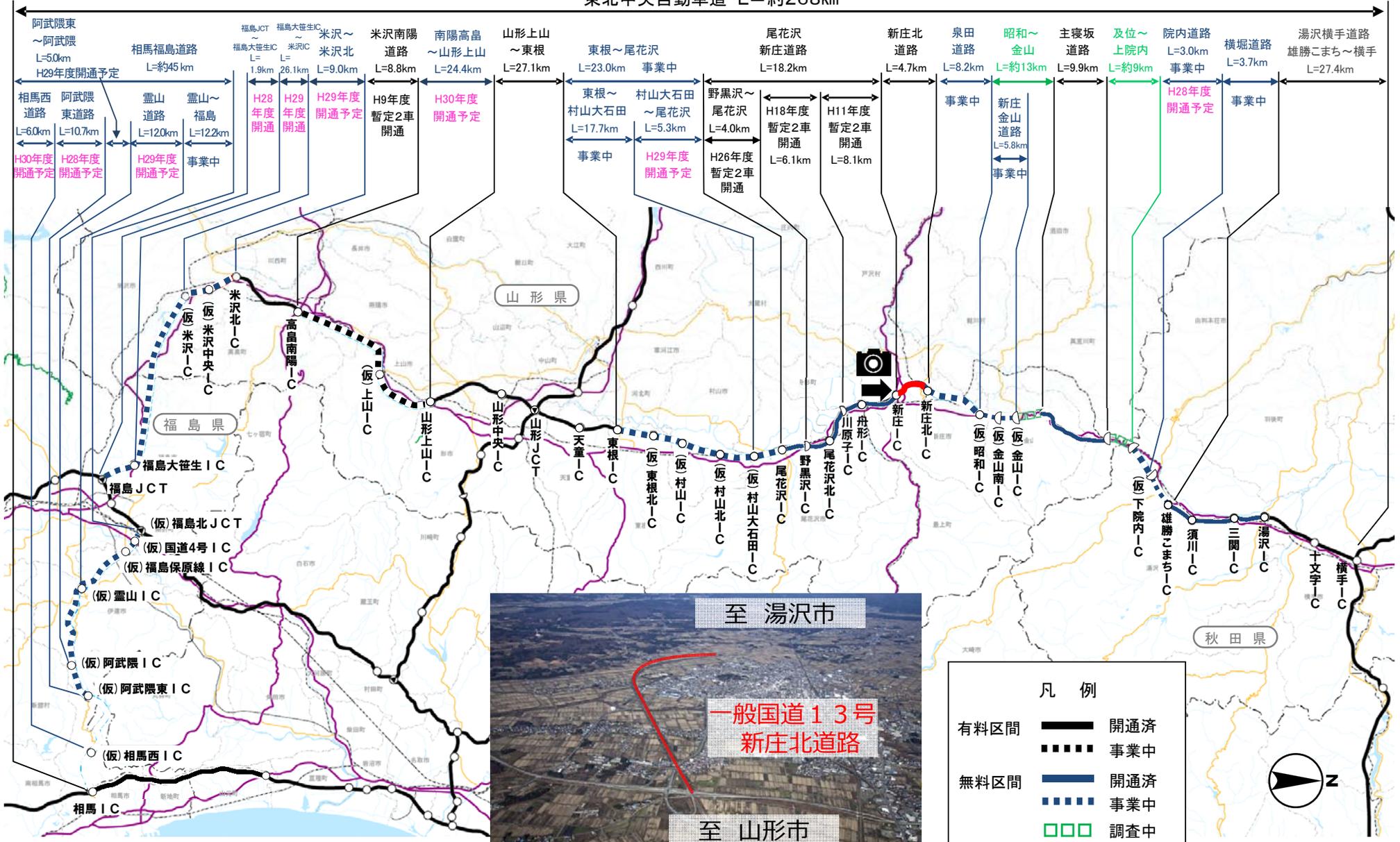
【橋梁部】



1. 事業の目的と概要 (2)

東北中央自動車道の整備状況(H27.4現在)
 開通済み 98km (36.6%) 事業中 151km (56.3%)

東北中央自動車道 L=約268km



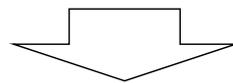
2. 整備状況



現道 (国道13号) 道路整備による交通状況の変化



▼国道13号(現道)五日町交差点付近 (H19.6)



▼国道13号(現道)五日町交差点付近(H27.12)

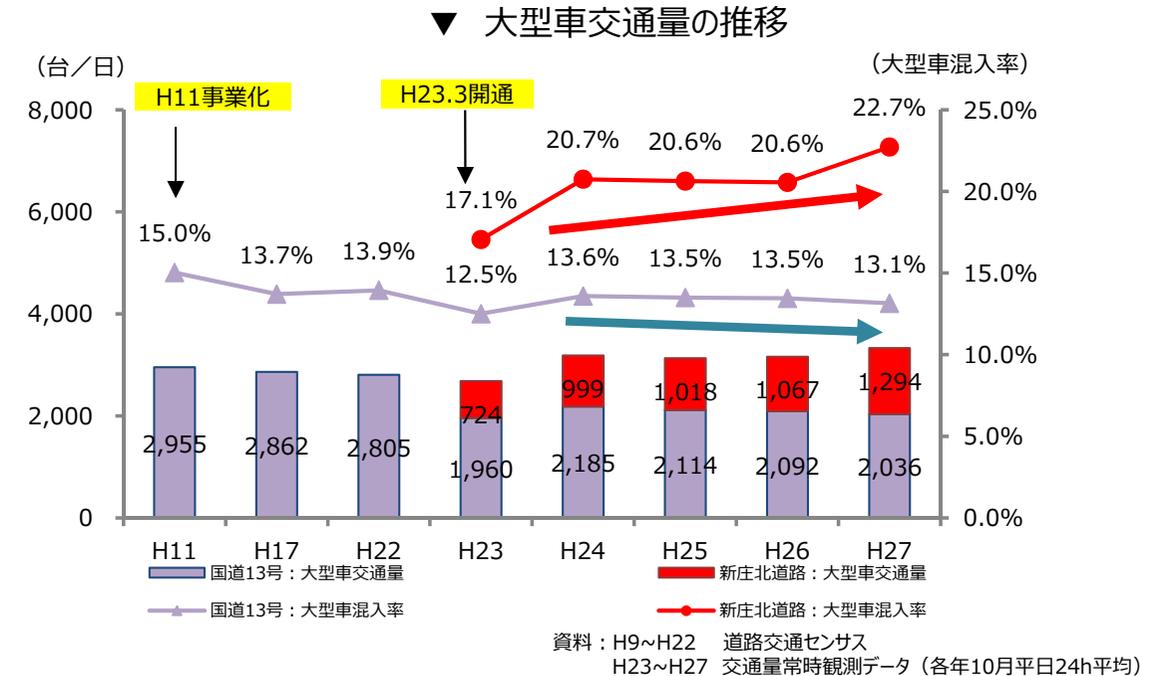
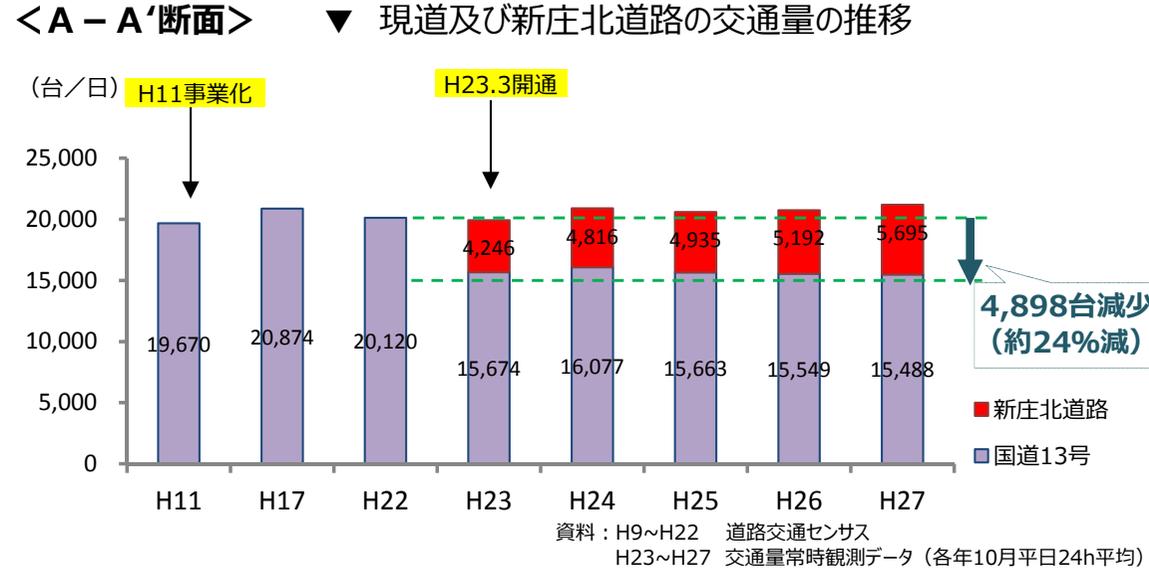
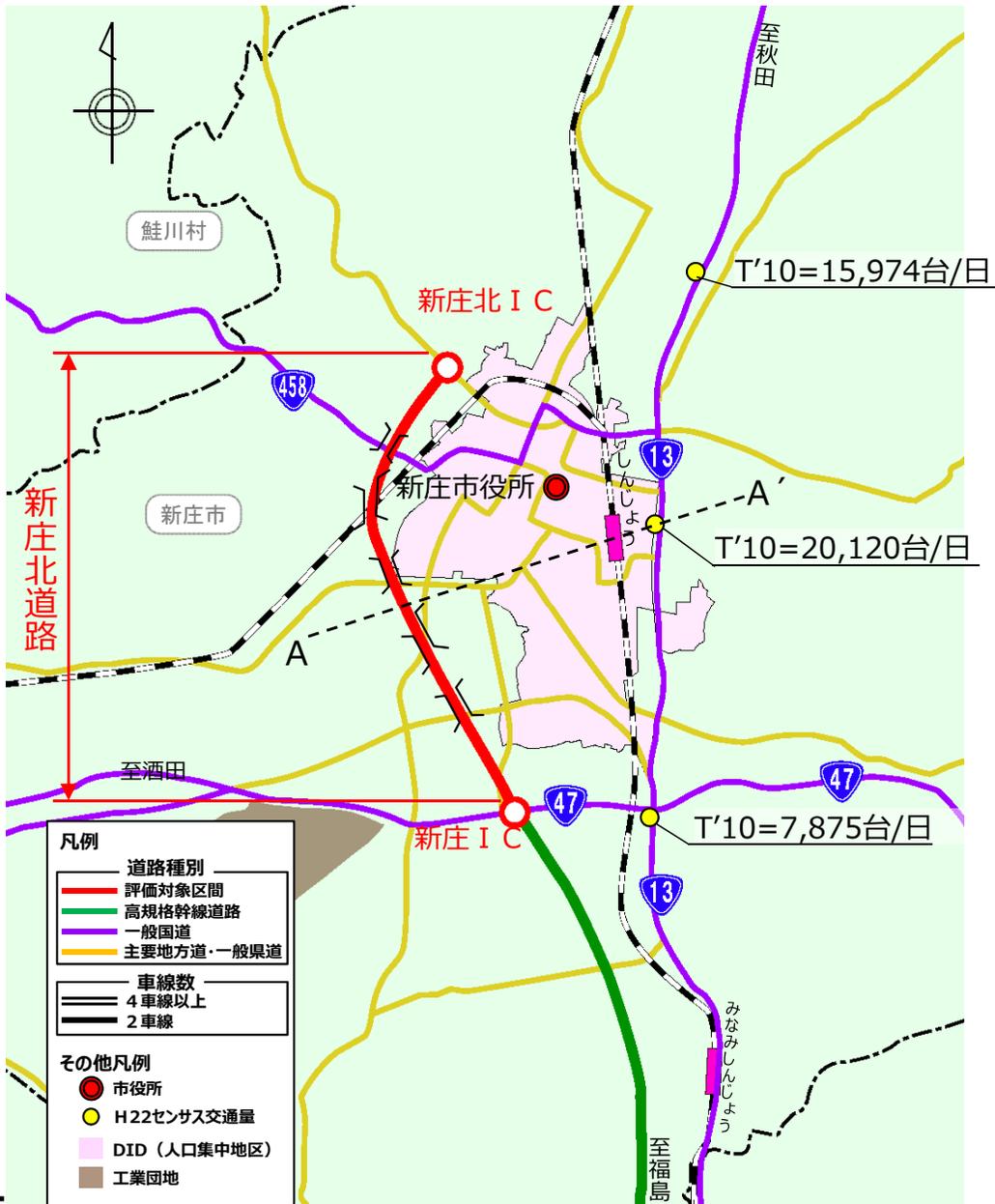
新道 (新庄北道路) 道路整備による交通状況の変化



▼新庄北道路(新道)新庄市十日町付近 (H27.12)

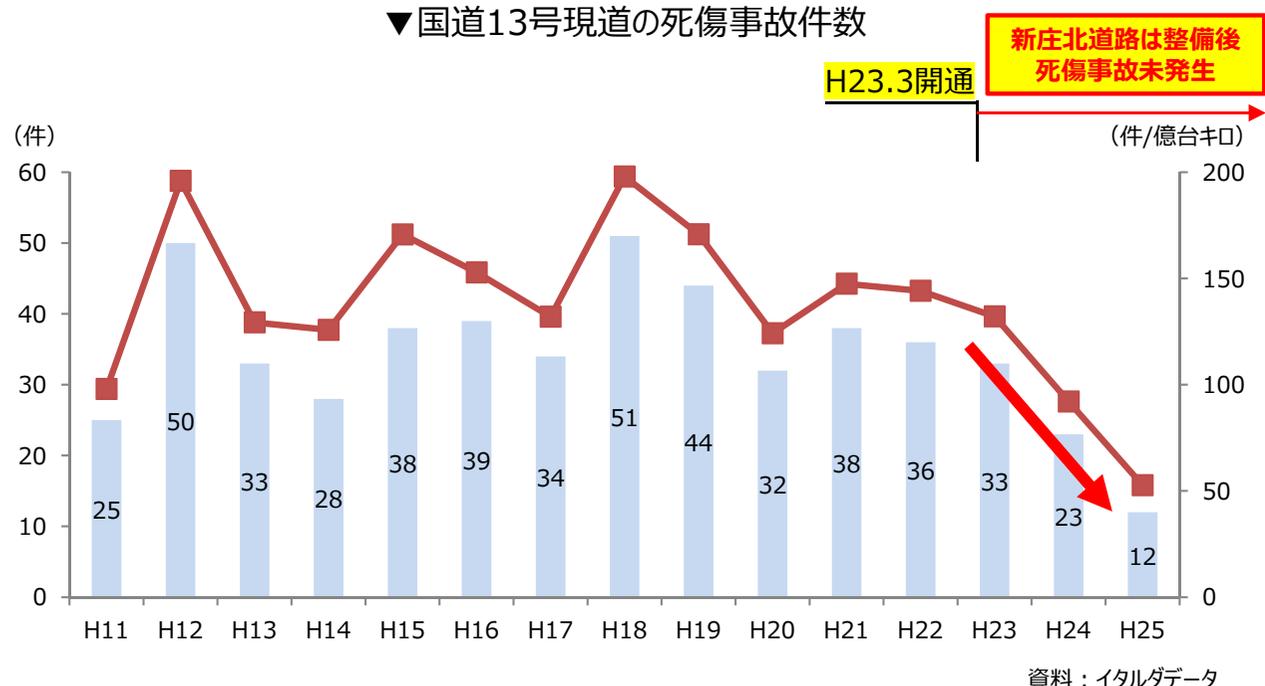
3. 事業効果の発現状況（1）利用交通量の状況

- ◆新庄北道路の開通以降、国道13号の交通量は減少し、新庄北道路の交通量は増加
- ◆大型車交通量も同様に国道13号は減少し、新庄北道路は増加

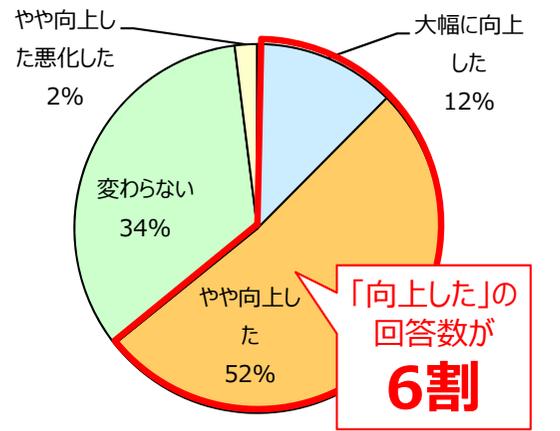


3. 事業効果の発現状況 (3) 交通事故の減少

- ◆新庄北道路開通後、国道13号現道の死傷事故件数は大幅に減少。新庄北道路は整備後、死傷事故が未発生
- ◆道路利用者も渋滞の改善、交通量の減少による安全性の向上を実感

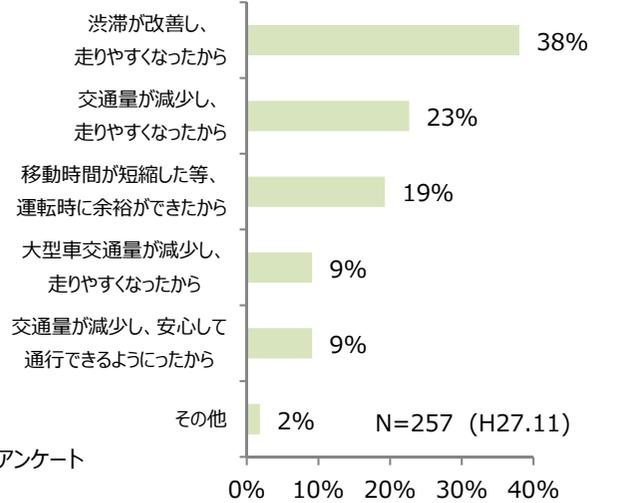


▼ 開通後の新庄市内の道路の安全性の変化



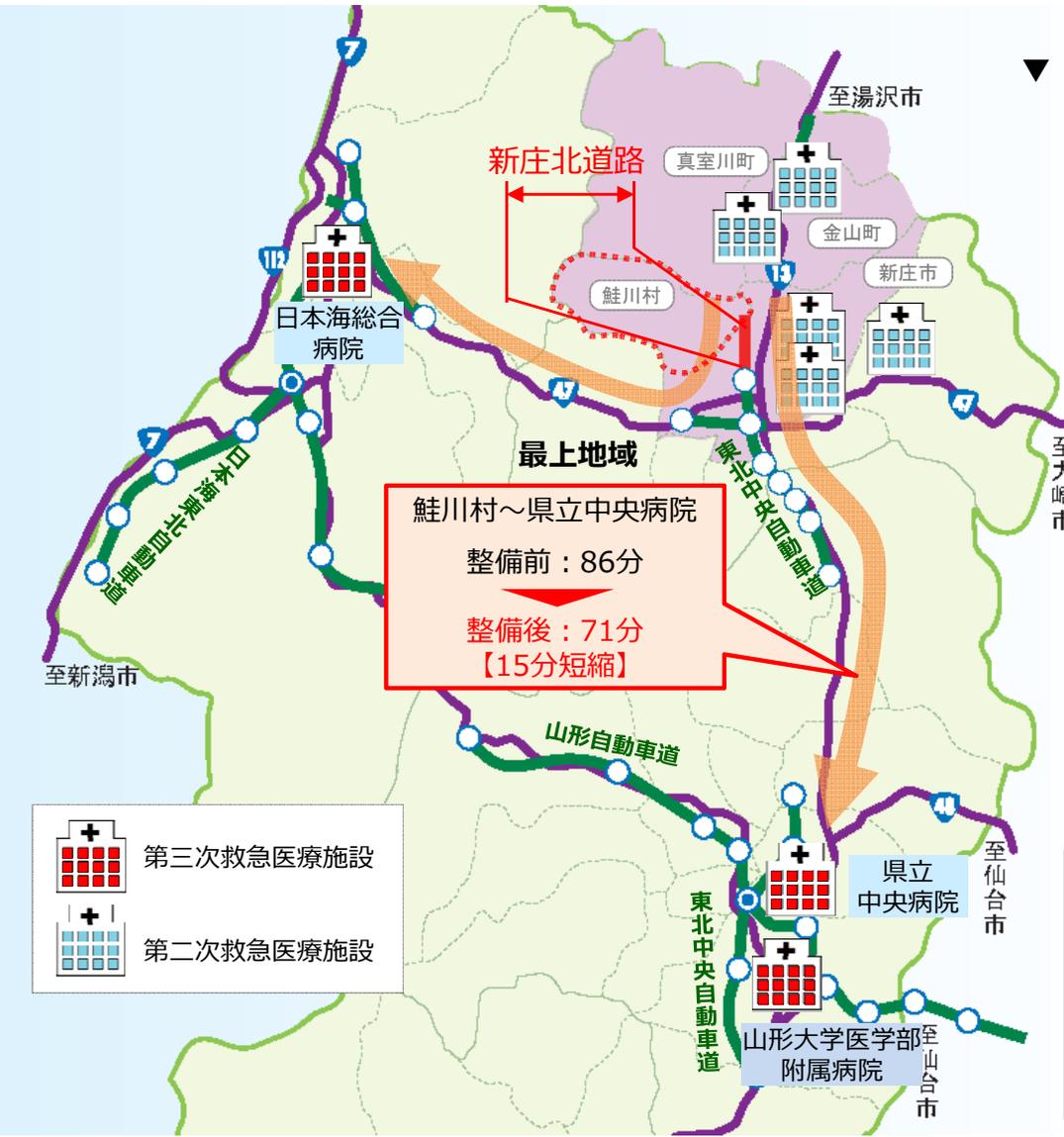
資料：新庄北道路沿線の利用者を対象としたWEBアンケート N=400 (H27.11)

▼ 安全性向上の理由

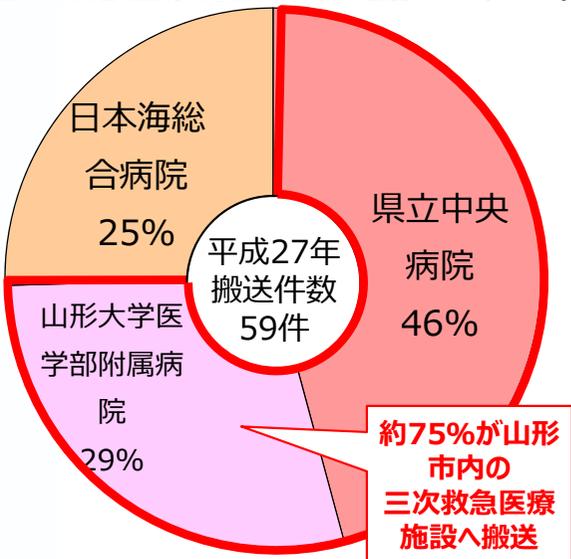


3. 事業効果の発現状況 (4) 三次救急医療施設へのアクセス向上

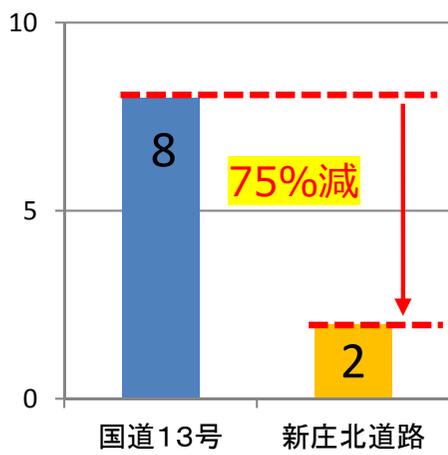
- ◆最上地域には三次救急医療施設がなく、重篤患者の75%は山形市内の病院へ搬送
- ◆搬送の際、市内ルートに比べて新庄北道路通過ルートは、信号交差点数が少なく、時間短縮や安定搬送に寄与



▼ 新庄市、金山町、真室川町、鮭川村から三次救急医療施設への搬送割合 (H27)



▼信号交差点数 (五日町交差点～新庄IC)



資料：最上広域市町村圏組合消防本部より H28.1

・国道13号現道利用時は、信号交差点での一時停止や発進時に、傷病者の体に負担が掛かります。
 ・新庄北道路は信号、渋滞がないため、**時間短縮や車両の走行が安定し、振動も少なく、傷病者への影響が軽減**された。

資料：H28.1 最上広域市町村圏組合消防本部

資料：プローブデータ (平日7～19時平均)
(整備前：H22.4～11 整備後：27.4～11)

3. 事業効果の発現状況 (5) 製品輸送の信頼性向上に寄与

- ◆ 新庄北道路や東北中央自動車道（尾花沢IC～野黒沢IC）の開通により、輸送時間が短縮し、取引先への輸送回数が2回/日から3回/日へ増加
- ◆ また、開通以降、真室川町の製造工場から東根市の取引先への出荷量、売上が増加

■ 精密機械、省力化機械部品等生産工場(真室川町)

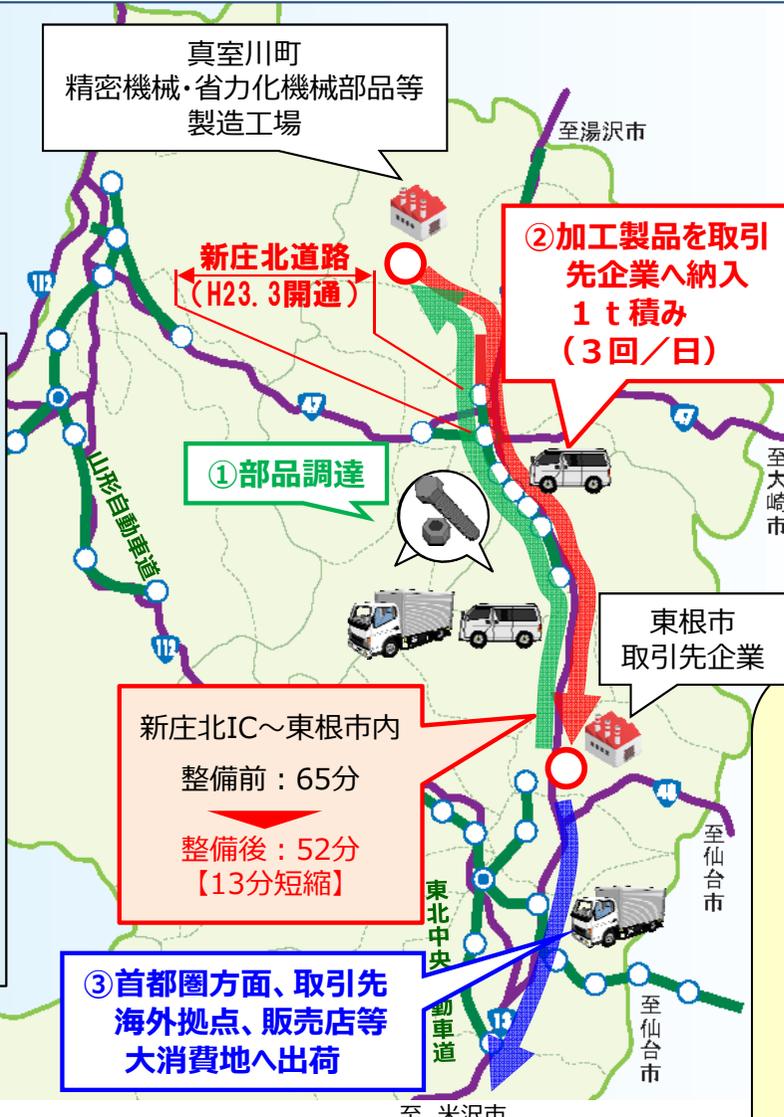
- 精密機械や直動システム等省力機械部品を製造
- 東根市の取引先企業から部品を調達、加工後の製品を取引先企業へ1日3回納入
- 輸送ルートとして新庄北道路を利用

▼ 精密機械生産風景

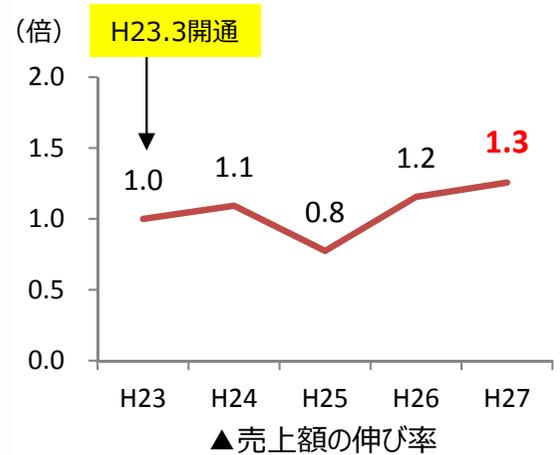


資料：精密機械・省力化機械部品等製造工場資料

▼ 直動システム



■ 製品出荷量
667台 (H23) ⇒ **864台 (H27)**
1.3倍



- 東北中央自動車道ができる前は**2回/日**で輸送していたが、**新庄北道路等、東北中央自動車道**ができて輸送時間が短縮し、**3回/日**の頻度で輸送が可能となった。
- 精密機械の製品を輸送する際、揺れやアップダウンによる製品の破損を取引先から心配されていたが、現在は心配されなくなった。
(顧客の安心、信頼性確保に寄与)

資料：H27.12 精密機械・省力化機械部品等製造工場ヒアリング

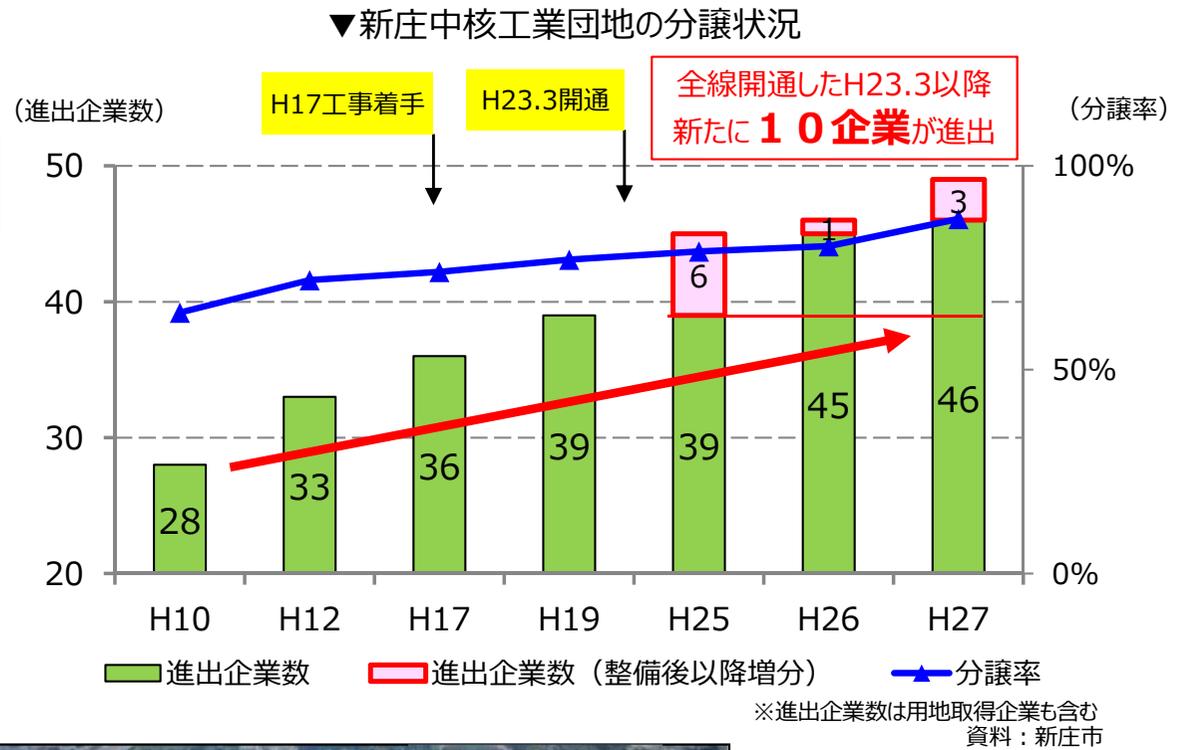
資料：プローブデータ (平日7～19時平均)
(整備前：H22.4～11 整備後：27.4～11)

3. 事業効果の発現状況 (6) 企業の立地を創出

- ◆ 高速道路アクセスが良い新庄中核工業団地は、東北中央自動車道の延伸に伴い、自動車関連部品製造等の企業進出が促進
- ◆ 秋田県、岩手県方面への輸送時は、新庄北道路を利用しており、利便性が向上
- ◆ H23以降、沿線地域における企業立地の経済効果は約130億円



▲ 自動車部品製造工場の製品輸送ルート

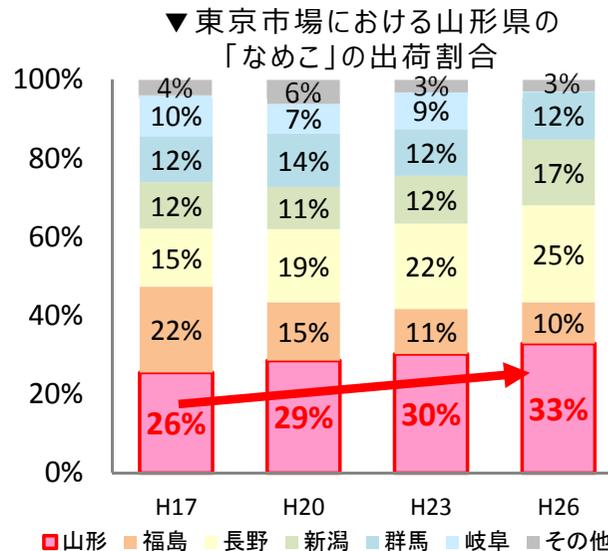


高速道路の利便性を求めて、高速道路に近接した新庄中核工業団地へ移転した経緯がある。
道路整備が進み、近年は当社が求める高速道路の利便性を感じる。

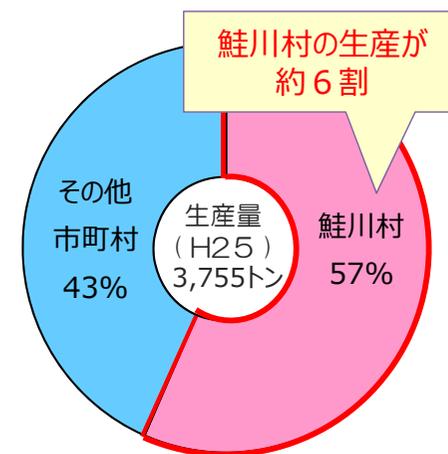
資料：H26.5 自動車部品製造業ヒアリング

3. 事業効果の発現状況 (7) 特産品の輸送支援

- ◆山形県産「なめこ」の東京市場のシェア（全国1位）は年々増加傾向となっており、県内生産量の約6割が鮭川村産
- ◆ICアクセスにより利便性が向上し、定時性確保と鮮度保持が図られ、品質の良さで評価の高い山形の特産の輸送を支援



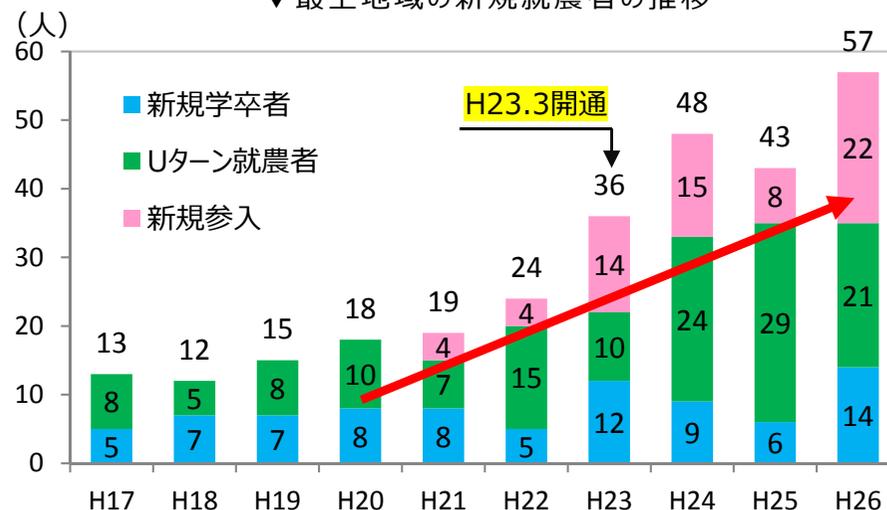
▼市町村別なめこ生産地(山形県)



資料：農林水産省 平成25年度特用林産物生産統計調査
もがみの農業 第38号(平成25年度)

資料：東京都中央卸売市場「地別取扱実績(なめこ)」

▼最上地域の新規就農者の推移



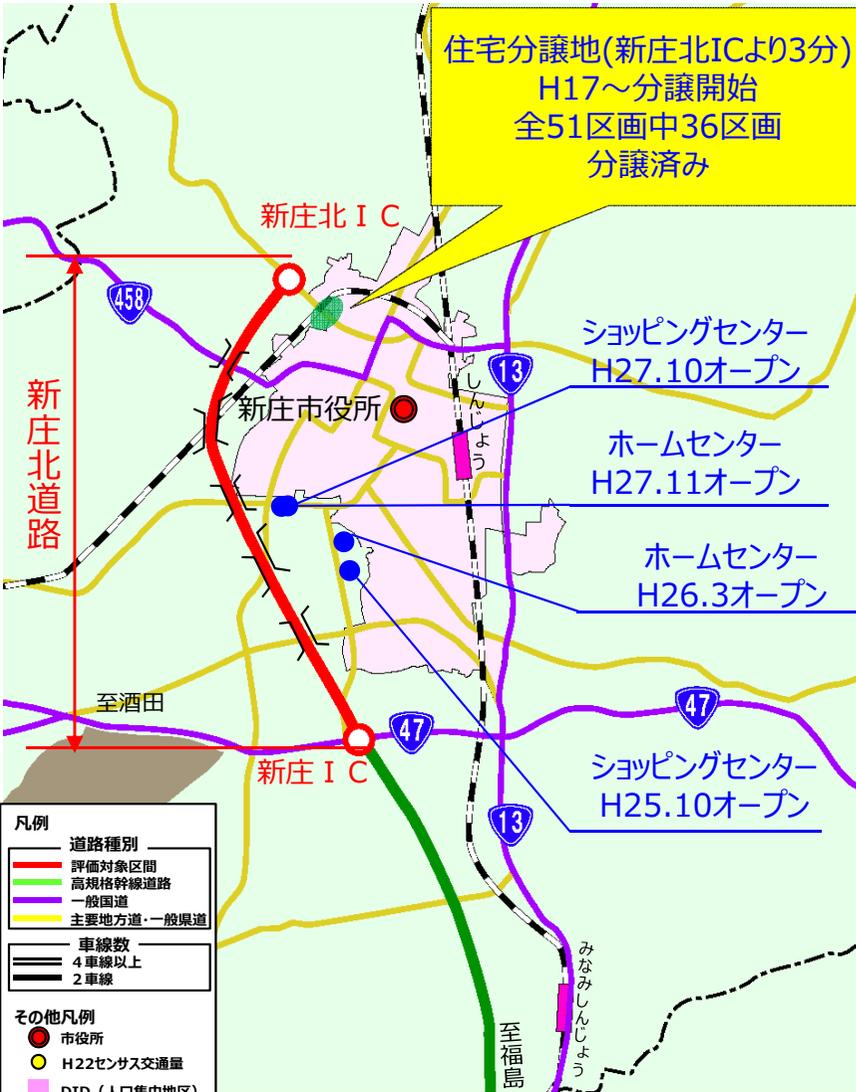
資料：もがみの農業 (H26年度 第39号) 最上地域農業・畜産振興協議会

- なめこは生ものの為、鮮度を重視している。また、翌日店頭へ並べる必要があり定時性が重要。
- 鮭川村は菌茸類、園芸の生産量が多い、また、農業法人も多く、後継や農業法人への新規就農者が増加している。

資料：H27.6、H28.2 生産者、鮭川村役場

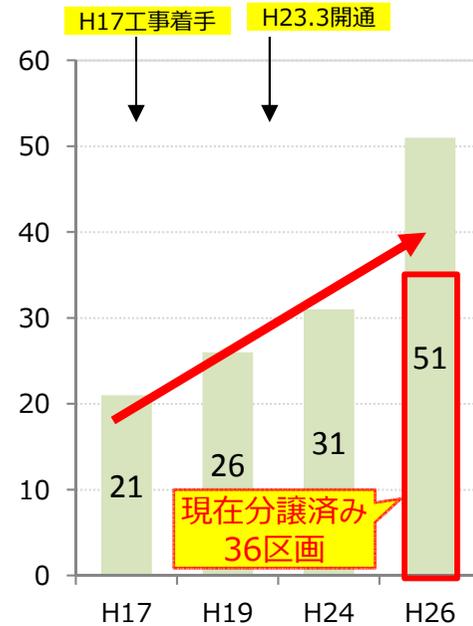
3. 事業効果の発現状況 (8) 地域の発展に貢献

- ◆新庄北道路開通により利便性が向上し、新庄北IC周辺で宅地分譲が進展
- ◆新庄北道路を含む道路網の整備によるアクセス向上により、ショッピングセンター等の進出や集客に寄与



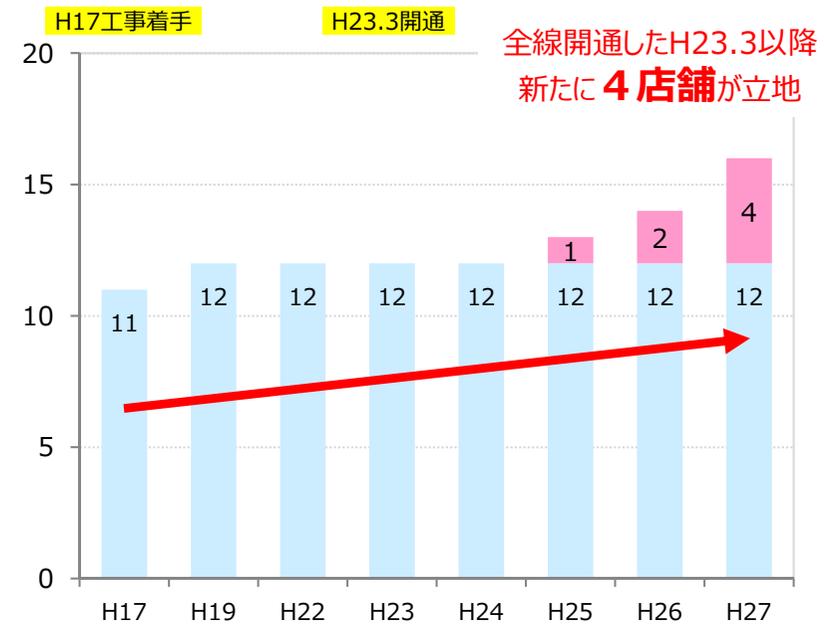
▲ 新庄北道路整備後における新庄市の大規模商業施設の立地状況

▼ 住宅分譲地における造成区画数の推移



資料：新庄市

▼ 新庄市における大型小売店舗数の推移



資料：全国大型小売店総覧2016年版(新庄市)

- ・新庄ICに近く、市街地を**通ることなく通勤が可能**になり、利便性が向上した。(IC付近の住民の方)
- ・新庄北道路を含む道路網の整備によるアクセス向上が一因となり宅地分譲やショッピングセンターが進出しています。

資料：H28.新庄市ヒアリング

- ・実家のある新庄市への**アクセス時間が大幅に向上**し、混雑や信号待ちを気にせず行くことが出来る様になった。また、**新庄市に大型スーパーが開店し、買い物をする際の利便性が向上**した。

資料：H27.Webアンケート

3. 利活用促進に向けた取組について

◆経済・観光振興等、東北中央自動車道の利活用促進に向けた取組みについて、関係者が一体となって議論し、道路の整備効果を最大限に活かした地域づくりの推進を図ることを目的として実施。

◆東北中央自動車道の一部を形成する新庄北道路についても利活用促進に向けた取組みについて議論が交わされた。

■名 称 『東北中央自動車道の利活用促進による地域活性化協議会』

■開 催 日 平成27年8月31日

■目 的

- 経済・観光振興等東北中央自動車道の利活用促進に向けた取組みについて、関係者が一体となって議論するとともに、東北中央自動車道の整備効果を最大限に活かした地域づくりの推進を図る。

■議論内容

- 東北中央自動車道利活用による地域活性化に向けた取組「地元企業の活性化、企業進出」「農業振興」「観光振興」
- 開通後の整備効果の発信 等

■主な意見

- 高速道路の利活用は、道路が出来る前に考える事が重要
- 各団体が連携し知恵を出し合い一体的に情報共有しながら各分野で進めたい
- 東北中央自動車道の開通PRに合わせ広域観光へ繋げていきたい 等

■構成機関

【国土交通省】山形河川国道事務所、福島河川国道事務所

【 県 】 山形県、福島県

【市町村】 山形市、米沢市、新庄市、上山市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、南陽市、山辺町、中山町、大石田町、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村、高畠町、川西町、福島市

【経済団体】山形商工会議所、米沢商工会議所、新庄商工会議所、天童商工会議所、福島商工会議所、山形県商工会連合会、

【東日本高速道路株式会社】山形工事事務所、山形管理事務所、福島管理事務所



取組み内容

4. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

○全体事業費

前回（H21）評価時：181億円（完成） 160億円（暫定）

事後（H27）評価時：181億円（完成） 160億円（暫定）

○計画交通量（H42）（完成4車）

前回（H21）評価時：15,500台/日

事後（H27）評価時：15,300台/日

○実測（H27）交通量：5,695台/日（暫定2車線）

（参考）費用便益比：2.7

5. 事業実施による環境の変化

評価対象区間の並行区間（国道13号）については、開通後に環境騒音調査を実施。完成後は環境基準を達成しており、良好な沿道環境を形成している。

6. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

○高規格幹線道路の整備状況

・東北中央自動車道 H14年 9月 山形上山IC - 東根IC間 開通。

H18年 2月 東根 - 尾花沢が新直轄方式に切替。

H22年 2月 全線が無料化社会実験の対象区間に指定される。

H24年 4月 地域活性化インターチェンジとして福島大笹生IC・米沢中央IC(仮称)・東根北IC(仮称)・村山大石田IC(仮称)・村山北IC(仮称)の連結許可

H26年 11月 尾花沢新庄道路・尾花沢IC - 野黒沢IC間 開通により同道路が全線開通

7. 対応方針（案）

事業の目的に対する効果を概ね発現しているものの、今後のネットワークの完成等社会状況の変化に応じて、改めて事業評価を実施する。